

キャリア発達のための社会性と 情動の学習 (SEL-8Career) プログラムの試案構成

A pilot curriculum of Social and Emotional Learning of 8 Abilities
for Career Development (SEL-8Career) program

小 泉 令 三

Reizo KOIZUMI
(教職実践講座)

(平成29年10月2日受理)

本研究では、青年期中期以降を中心にキャリア発達を促進し、就労支援により社会的自立を促進するための「キャリア発達のための社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development: SEL-8Career) プログラムの構成の試案を提案した。学習プログラムを構成するにあたっては、次の8つの社会的能力の枠組みを用いた: 自己への気づき, 他者への気づき, 自己のコントロール, 対人関係, 責任ある意思決定, 生活上の問題防止のスキル, 人生の重要事態に対処する能力, 積極的・貢献的な奉仕活動。全部で26のユニットの内容とおもなねらいを提案した。

キーワード: 社会と情動の学習, キャリア発達, 高等学校, 就労支援, 社会的自立

キャリア教育における社会的能力

わが国の産業構造や就業構造の変化により、若者の社会的・職業的自立や学校から社会・職業への円滑な移行が必要とされ、このためにキャリア教育の推進と充実が求められている(中央教育審議会, 2011)。

ここでいくつかの主要概念を説明しておく。キャリアとは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」を意味している。単に職業生活に関する事項だけでなく、生涯にわたる生き方に注目している点に特徴がある。また、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。ここでのキャリア発達とは、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」を指している。

以上の説明は、いずれも中央教育審議会(2011)によるものであるが、学校等の実践の場で広く採用されており、また海外での一般的な使われ方(例: Gouws, 1995)ともほとんど差異がないと考えられるので、そのまま使用する。

基礎的・汎用的能力

それでは、キャリア教育で育成を図ろうとしている能力とはどのようなものなのだろうか。文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2011)は、基礎的・汎用的能力がキャリア教育で育成すべき能力であるとして、それを構成する4つの能力(①~④)の概要を表1のようにまとめている。

そして、それまでに提示されていた社会的自立に関連する能力論として、人間力(内閣府・人間力戦略研究会, 2003)、就職基礎能力(厚生労働省, 2004)、社会人基礎力(経済産業省・社会人基礎力に関する研究会, 2006)、学士力(中央教育審議会, 2008)を取り上げ、それらにさらに4

表1 基礎的・汎用的能力の説明

能力	説明
①人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
②自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
③課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
④キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2011）

能力8領域（国立教育政策研究所生徒指導研究センター，2002）を加えて、これらの諸能力と基礎的・汎用的能力との関係をまとめている。それによると、先の4つの諸能力は、基礎的・汎用的能力の中の④キャリアプランニング能力以外の3つの能力、すなわち①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力と重なるものが多いことが示されている（文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター，2011，表3-2）。ここで、④キャリアプランニング能力が従来の4つの諸能力に含まれていなかったのは、4つの諸能力がおもに学校から職場への就職の移行期に注目しているのに対し、④キャリアプランニング能力はより長期的なスパンでのキャリア形成に関わる能力とされているためではないかと考えられる。

現在、基礎的・汎用的能力の考え方にもとづく教育実践が小～高校で実践されつつある。2017年公示の新学習指導要領では、小学校でも特別活動の中にキャリア教育に関わる事項が記載されるようになり（文部科学省，2017）、全校種での推進が求められている。それ以外の場での取組に目を向けると、経済産業省が提唱した社会人基礎力の枠組みでの看護師養成（山本・阪上・田中・後閑，2017）や、大学生の心理社会的発達（自我同一性）（井芹・河村，2016）あるいは進路選択との関係（田島・岩瀧・山崎，2016）の検討などが報告されている。

キャリア発達と感情・情動

海外では以前からキャリア発達における能

力（competency）が重視されている（文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター，2011）が、理論の面ではまだ十分なレベルにはいたっていないとの意見もある（松本，2008a，2008b）。一方、職場に限らず家庭や日常生活など人生のあらゆる場面で感情や情動が重要な役割を担っているとして、これに注目した感情知性あるいは情動知性（emotional intelligence）の概念が提案されている。ただし、この概念は多義的で、例えば管理職の職場での態度や行動と関連があるとする報告はあるものの（例：Carmeli，2003）、より多様な場面を考慮すると職場環境での効果は不明確な部分があるとのレビュー論文も出されており（Zeidner，Matthews，& Roberts，2004）、キャリア形成における役割が十分に確認されているわけではない。情動知性はこのように議論のある概念であるが、これを教育の場で実践につなぎ、子どもの好ましい成長や学校生活への適応、そして社会的自立を促進しようとする取り組みが、次に述べる社会性と情動の学習（social and emotional learning: 以下SELとする）として普及しつつある。

社会性と情動の学習プログラム

SELとは

SELとは、アメリカの民間団体である Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning (CASEL: キャセル) (学業・社会性・情動学習振興団体) によると「子どもや大人が、

情動 (感情) の理解と管理, 積極的な目標設定と達成, 他者への思いやりをもちそれを示すこと, 好ましい関係作りと維持, そして責任ある意思決定について, これらができるようになるための知識, 態度, スキルを身につけて効果的に利用できる過程」を含むと説明されている (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2012)。なお, 本研究での社会的能力とは, 適切な自己・他者・状況認知をもとに, 自己の情動と行動をコントロールして, 周囲の人々や集団との良好な関係や関わりをもつ力を意味する。わが国ではより簡潔に, 「自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした, 社会性 (対人関係) に関するスキル, 態度, 価値観を育てる学習」といった説明もされている (小泉, 2011)。

SEL のための学習プログラム (SEL プログラム) は, 欧米を中心に多数開発され効果検証が進められている。ランダム化比較試験 (RCT) を用いたエビデンスレベルが高いとされる多数の研究のメタ分析で, その教育効果が確認されている (Durlak, Weissberg, Dymnicki, Taylor, & Schellinger, 2011)。また介入後のフォローアップ期の効果を報告している 82 の研究のメタ分析で, 介入群は統制群よりも社会性と情動のスキル, 態度, 健康について好ましい結果が出ていることも示されている (Taylor, Oberle, Durlak, & Weissberg, 2017)。わが国においても効果検証が進みつつあるが, エビデンスの観点では, まだ十分なレベルにはないと指摘もある (Ikesako & Miyamoto, 2015)。

小中学生を対象とした SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at School) プログラム (小泉, 2011) は, わが国の SEL プログラムの中の特定のプログラムで, 8つの社会的能力 (自己への気づき, 他者への気づき, 自己のコントロール, 対人関係, 責任ある意思決定, 生活上の問題防止のスキル, 人生の重要事態に対処する能力, 積極的・貢献的な奉仕活動) の育成をめざしている。初めの5つが基礎的な社会的能力, 残りの3つが応用的な社会的能力と区別されている。徐々にではあるが, SEL-8S の実践研究において効果検証が進みつつある (例: 香川・小泉, 2015)。

本研究の目的

本研究は, この8つの社会的能力の枠組みを用いて, 青年期中期以降を中心にキャリア発達を促進するための SEL プログラム「キャリア発達のための社会性と情動の学習」(Social and

Emotional Learning of 8 Abilities for Career Development: 以下, SEL-8Career とする) プログラムの構成の試案を提案することを目的とするものである。プログラムの対象は, 何らかの就学上あるいは生活上の困難を抱えているために, 高校卒業後あるいはそれに相当する年齢での社会的自立に課題を抱えていたり, その恐れのある者である。

ここで SEL-8Career に8つの社会的能力の枠組みを用いるのは, 5つの基礎的な社会的能力が CASEL によって SEL を構成する重要な能力であるとされ (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2012), 汎用性が高いと判断されるのと, 3つの応用的な社会的能力も, 発達段階や適用対象となる状況 (学校, 家庭, 職場など) を問わず, 環境への適応に必要な能力であると考えたためである。

SEL とソーシャルスキルトレーニング

SEL-8Career プログラムでは, ソーシャルスキルトレーニング (SST) が重要な学習手法となっており, 従来就労支援の場で重要な役割を果たしていると考えられる。ただし, SST に関して公表されているのは, 病院や精神科デイケアでの実践のみであり (大川・本田, 2017), 定時制高校や通信制高校を含めてその他の組織や機関等での実践の実態は明らかでない。

なお, 通信制課程高校生については, SEL-8S プログラムと同一の社会的能力の枠組みで作成されたキャリア教育に関わるプログラムが提案されている (小泉, 2008)。ただし, これは通信制課程の特徴として, 自学用またはメディア用教材の作成を前提としているために, 小ステップでのカリキュラム構成となっており, 全体で48の授業構成となっている。通信制課程以外でこれだけの学習時間や学習機会を確保するのは容易ではないため, 今回はこれを一部参考にしつつも, 新たに学習プログラムを構成することとした。

SEL-8Career プログラムの試案

SEL-8Career プログラムの8つの社会的能力を, 児童生徒用の SEL-8S プログラム (小泉, 2011) と比較するかたちで表2に示した。これは, 小中学生を対象とした SEL-8S プログラムの8つの社会的能力の枠組みを基本にして, 青年期以降を中心にしたキャリア発達に関係する能力を記述したもので, 5つの基本的な社会的能力は同じであるが, 3つの応用的な社会的能力は発達段階

表2 SEL-8S と SEL-8Career の社会的能力の比較およびSEL-8Career と基礎的・汎用的能力の関係

8つの社会的能力	SEL-8S (児童生能用) の各能力 (小泉, 2011)	SEL-8Career の各能力	基礎的・汎用的能力 (①~④) と SEL-8Career との関係			
			①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力	③課題対応能力	④キャリアプランニング能力
自己への気づき	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	○ 自己の役割の理解	○		
他者への気づき	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	○ 他者の個性を理解する力	○		
自己のコントロール	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことを認めることにも、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また協同による一時的な満足にとどまらず、目標を達成できるように一生懸命に取り組む力	○ 他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ	○	△ 原因の追究, 課題発見, 計画立案, 実行力	
対人関係	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全な価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力	周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全な価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力	○	○		
責任ある意思決定	関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力	関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力		○ 主体的行動		
生活上の問題防止のスキル	アルコール・タバコ・薬物乱用防止、病気とけがの予防、性教育の成果を含めた健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やけんかの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル	アルコール・タバコ・薬物乱用防止、病気とけがの予防、性教育の成果を含めた健全な家庭生活、身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化、暴力やけんかの回避、精神衛生の促進などに必要なスキル		△ ストレスマネジメント		
人生の重要事象に対処する能力	中学校・高校進学への対処、緊張緩和や葛藤解消の方法、支援を求め方(サポート)の知識、アセスメント、家族内の大きな問題(例:両親の離婚や別居)や死別への対処などに関する能力	就職・転職・異動などの環境移行への対処、家族内の大きな問題(結婚や死別など)への対応、緊張緩和や葛藤解消、支援要請(サポート)源を探し、アセスメントなどに関する力		△ ストレスマネジメント		○ 将来設計, 選択, 行動と改善
積極的、貢献的な奉仕活動	ボランティア精神の保持と育成、ボランティア活動(学級内、異学年間、地域社会での活動)への意欲と実践力	ボランティア精神の保持と向上、身近な人助けと自発的関与に関する力				

(注) ○は比較的強く該当しており、△は弱く該当していることを表す。また、○△の記号の下の文言は、文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2011)よりの抽出である。

階に即した内容となっている。

さらに表2には、これらの社会的能力と4つの基礎的・汎用的能力の関係をまとめてある。両者の関係の強弱を便宜的に○△で表すとともに、その関係を理解できるように、文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2011)に示されている関連する文言も引用した。

表2からは、SEL-8Careerが基礎的・汎用的能力の4つの能力を、ほぼすべて含んでいることがわかる。なお、「対人関係」と基礎的・汎用的能力の③課題対応能力の関係が、“弱い”を表す△になっているのは、次の理由による。③課題対応能力は、表1で「仕事をする上での」とあるように仕事の場面に限定しての課題の原因の追究や、仕事に関する情報の理解・選択・処理を意味している。一方、「対人関係」は、仕事上の人との関わりにおける関係構築力を含んでいるが、人との関わり以外の課題や情報への対応は取り扱っていないためである。なお、「対人関係」は仕事に限

定せず、生活全般における人との関わりにおける関係構築力を意味しており、その点では職業に限定せず生涯にわたる生き方を意味する“キャリア”概念により近いとも言える。

SEL-8Careerの実際の学習は、表3の最上段に示す「A 基本的な生活習慣」～「H ボランティア」の8つの学習領域で進められる。表3は各学習領域での主テーマと、その主テーマの学習によっておもに育成を図る社会的能力との関連づけを示している。なお、記述のない他の社会的能力との関係が全くないという意味ではない。例えば、「A 基本的な生活習慣」の「時間管理」は、自己のコントロール以外に、自分の日常生活の振り返りを要するため、自己への気づきに関連してくるし、またこれからの実行への決心は、責任ある意思決定に関わる。

次に表3の主テーマをもとに、各学習ユニットのねらいとそこでの重要な気づきやスキルの試案をまとめたものが表4である。ここでの学習ユ

表3 SEL-8Careerの8つの学習領域における主テーマ例

学習領域		A 基本的な生活習慣	B 自己・他者への気づき、聞く	C 伝える	D 関係づくり	E ストレスマネジメント	F 問題防止	G 環境変化への対処	H ボランティア
基本的な社会的能力	自己への気づき		・自己理解 (感情, 人間関係能力, 諸特性)						
	他者への気づき		・他者理解 (感情, 立場) ・傾聴						
	自己のコントロール	・時間管理 ・金銭管理 ・整理整頓							
	対人関係	・あいさつ		・感情伝達 ・意思伝達 (依頼, 断り, 質問, 電話, 電子メール・SNSなど)	・関係開始 ・関係維持 ・問題解決 ・意見・説明				
	責任ある意思決定						・規範行動		
応用的な社会的能力	生活上の問題防止のスキル					・ストレス認知 ・ストレス対処	・精神衛生 ・健康管理	・援助要請	
	人生の重要事態に対処する能力							・求職 ・就職 ・異動	
	積極的、貢献的な奉仕活動								・家庭・職場・地域でのボランティア

(注)この表は、各主テーマでおもに育成を図る社会的能力との関係を示したもので、他の社会的能力の育成も行われる。

表 4 SEL-8Career の学習ユニットのねらいと重要な気づきやスキル¹

学習領域	学習ユニット	学習のねらい	重要な気づきやスキル
A 基本的生活習慣	あいさつ 「初対面の人へのあいさつ」	就職先やアルバイト先などで初めて会う人へのあいさつや自己紹介の仕方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職等に関係する場面でのあいさつの重要性を知る。 ・「あいさつのポイント」(声、姿勢、視線)を身につける。 ・「一言あいさつ」ができるようになる。 ・「自己紹介のポイント」(あいさつ、名前、一言アピールなど)を身につけ、適切な自己紹介ができる。
	整理整頓 「所持品や道具などの管理」	所持品や身の回りの物品・道具などを適切に管理することのメリットを知り、自分に合った管理方法を見つけられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の重要性に気づく。 ・「道具管理のポイント」(グループ分け、場所を決める、元に戻す、捨てる)を知る。 ・自分に適した整理整頓の方法を実行できる。
	時間管理 「時間を大切に」	時間管理の重要性に気づき、日々の生活の中で、有効な管理ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の時間管理の現状に目を向け、問題点に気づく。 ・スケジューリングのポイント(実施事項、時間、計画、修正)を知り、利用できるようになる。 ・スケジューリングすべき事態を適切に選択できる。
	金銭管理 「お金を大切に」	金銭管理の重要性に気づき、自らの生活を振り返って、計画的な管理ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の金銭管理の特徴や問題点に気づく。 ・電子マネー等の利便性と注意点を理解し、適切な利用方法を身につける。 ・現金と預金を含めて、適切な管理方法を身につける。
B 自己・他者への気づき、聞く	自己理解① 「自分の得意・不得意」	自分の得意なことと不得意なことを自覚し、得意なことを伸ばすとともに、不得意なことの改善への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者から見た自分の得意な面を知る。 ・自己評価で、自分の不得意な面を振り返る。 ・得意なことを伸ばす方法と不得意なことを改善する方法を考え、実行への意欲を高める。
	自己理解② 「自分の特徴を知ろう」	自分の長所と短所に気づき、長所を伸ばすとともに、短所を克服する方法を考え、自己の成長につながる機会とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・エゴグラムを用いて、自分の長所と短所に気づく。 ・長所と短所は表裏一体であることを知る。 ・自分の短所の克服に建設的に取り組む方法を考え、実行への意欲をもつ。
	他者理解 「別の面に気づこう」	人にはさまざまな面があることに気づき、複眼的に見ようとする態度を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の好きな特徴と嫌いな特徴を書き上げることによって、人には必ず複数の面があることに気づく。 ・意識的に複数の面を見ようとするこの大切さを知る。 ・自分のこれまでの他者理解の課題に気づき、改善点をあげることができきる。
	傾聴 「“気持ち”を聞こう」	話の聞き方には、複数のレベルがあることを知り、傾聴の経験を通して、その重要性とやり方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・“聞く”には少なくとも3つのレベルがあることを知る。 ・傾聴を経験して、その大切さに気づく。 ・「正しい聞き方のポイント」(姿勢、視線、態度、あいづち)を知り、それを使った聞き方ができるようになる。

¹ 本表の作成にあたっては、村上敏之氏の助言を得ました。記して感謝いたします。

(表4 続き)

C 伝える	依頼 「上手な頼み方」	依頼する場面で、適切な頼み方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・頼み方によって、結果が異なることを確認する。 ・自分の頼み方の特徴に気づく。 ・「頼み方のポイント」(相手の都合、内容の明確化、理由、感謝の言葉)を身につける。
	断り 「上手な断り方」	断るべき場面で、適切な断り方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な人間関係における断ることの重要性に気づく。 ・断り方に、非主張的、攻撃的、主張的の3種類があることを知る。 ・「断り方のポイント」(明確な断り、理由、代案提示)を身につける。
	気持ちの伝達 「良い気持ちと嫌な気持ち」	ポジティブな気持ちとネガティブな気持ちを、適切に相手に伝える方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを相手に伝えることの重要性に気づく。 ・“わたしメッセージ”で自分の気持ちや思いを伝えることができる。 ・“あなたメッセージ”で自分の気持ちを伝えることができる。
	質問 「わからないことを聞く」	質問することの重要性を知り、状況や相手に合わせた適切な質問方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、自己の利益と相互理解につながることを知る。 ・質問形式が2種類(開・閉)あり、異なる機能があることを知る。 ・「聞き方のポイント」(タイミング・許可、質問、理解の伝達、感謝)を身につける。
	電話のマナー 「仕事で使う電話」	職場等での電話のコミュニケーション方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場等での電話でのコミュニケーションの重要性を確認する。 ・フォーマルな場面での電話の受け方を身につける。 ・職場等での電話のかけ方を身につける。
	メールやSNS 「顔の見えないコミュニケーション」	メールやSNSでのコミュニケーションは、対面でのやりとりと異なる面があり、その特徴を踏まえたやり方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・メール等でのコミュニケーションは、対面に比べて情報量が少ないという特徴に気づく。 ・メールやSNSによる種々のトラブルの実態を知る。 ・メールやSNSを使う際の注意点を知り、トラブルが生じないようにする。
D 関係づくり	関係開始 「友だちや知人をつくらう」	新しい環境の中で出会う人と信頼関係を築くことの重要性を知り、そのための具体的な方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい出会いの中で、信頼関係を築くことの重要性を知る。 ・関係開始のために、「あいさつのポイント」を実行できるようにする。 ・「自己紹介のポイント」を適切に実行できるようにする。
	関係維持 「時間や約束を守ろう」	他者との関わりの中で、時間や約束を守ることの重要性を知り、自分を守ることの重要性を知り、自分守りの方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関係維持のために、時間や約束を守ることの重要性に気づく。 ・時間や約束を守ることについての自分の行動の特徴を知る。 ・時間や約束を守るための方法(スケジュール帳、メモ、アラームなど)を知り、実行への意欲を高める。
	意見、説明 「要領よく上手に話そう」	自分の考えや思いを伝えたり、状況や経過を説明したりする場面で、話し方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いの表明、状況や経過の説明の場面での自分の行動を振り返る。 ・「伝え方のポイント」(要点や全体像の説明、次に補足事項や状況の説明)を知り、身につける。
	問題解決 「トラブルの解決」	周囲の人とトラブルになったときに、適切に解決できる方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・避けたい意見の相違や利害関係によって生じるトラブル場面での自分の行動を振り返る。 ・トラブルは解決する必要があることを知る。 ・「トラブル解決のポイント」(目標設定、多様な解決方法案出、結果予想、最善策の決定と実行)を知り、身につける。

(表 4 続き)

E ストレスマネジメント	ストレスの種類とスト レス対処 「ストレスを知ろう」	ストレスには善玉と悪玉の2種類があることを知り、それぞれの方法や対処方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・善玉・悪玉ストレッサーについて理解する。 ・善玉ストレッサーを活かす方法があることを知る。 ・悪玉ストレッサーによるストレス反法へのさまざまな対処方法を知り、自分に合った方法を利用しようとする。
	自分のストレス対処法 「私のストレス解消法」	ストレスへの対処法にはさまざまな方法があることを知り、自分にあった方法を見つけ、利用できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面や状況でのストレス対処法を知る。 ・ストレッサーそのものへの対応が有効である場合があることを理解する。 ・ストレス対処法のレパトリーを広げ、場面や状況に適した自分なりの対処法を身につける。
F 問題防止	心身の健康 「心と体の健康」	心身の健康の大切さを理解し、自らの健康管理の必要性和そのための具体的な方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活や精神衛生について振り返る。 ・栄養バランスについて知り、肥満や不必要なダイエットを避けようとする意欲を高める。 ・心の健康への関心を高め、自己チェックによって健康度を保つ方法を知る。
G 人生の岐路	規範意識の向上 「自分も他人も気持ちよく過ごそう」 生き方の選択と決定 「自分を活かそう」	公共の場所では、自由ではなく、他人に気づかう言動が必要であり、自分と他人の両方を考えなければならぬことに気付く。 進学や就職を含めて、これからの人生設計のために考慮すべき事項を知り、必要な情報を集めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律違反ではないが、マナーとして確立されている社会のルールの特徴を知り、社会のルールを守ることの自他の利益に気づく。 ・社会のルールを守ることへの意欲を高める。 ・「生き方決定プロセス表」の使い方を身につける。 ・今後の人生設計のために考慮すべき事項（自己の特徴、願望、職業の種類・内容等）を理解する。 ・これから収集すべき情報を確認する。
	援助要請 「困ったら聞こう」	生き方の選択で迷ったり、新しい環境で困難に出会っても、適切な援助者を見つけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも、適切な援助者を見つけてこの重要性を理解する。 ・援助者の見つけ方（公的機関を含む）を知る。 ・適切な援助の求め方（説明や質問の要点をまとめておく、関連資料の収集と整理等）を身につける。
H ボランティア	家族や友人への援助 「身近な人助け」	家族や友人など身近な人に手助けが必要な場面でも、適切に声をかけて援助を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面でも、身近な人が手助けを必要とすることがあるかを思い起こす。 ・適切な声掛けの方法を身につけ、手助けをしようとする意欲を高める。 ・相手には援助を断る自由があることに気づく。
	街中でのボランティア 「ちよつとした声かけ」	街中や交通機関の中などで、手助けが必要な人に、適切に声をかけて援助を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・街中や交通機関などで、誰がどのような場面で手助けを必要とするのかを考える。 ・適切な声掛けの方法を身につけ、手助けをしようとする意欲を高める。 ・相手には援助を断る自由があることに気づく。

ユニットとは学習の単位を意味しており、学校で言えば1授業時間(45～50分)を想定している。なお、学習者の実態や学習状況等によって、学習時間を柔軟に調整することが予想される。また学習ユニットは、A、B、Dの3領域が4つずつ、C領域が6つ、他のE～Hの4領域は2つずつ配置されているが、この学習内容と学習回数については、今後の実践の試行状況や成果によって、修正や改善が必要になると予想される。

学習方法については、小中学生用のSEL-8Sプログラムと同様に、単に講義や説明を聞くだけでなくモデリングやロールプレイを交えた体験型の学習形態でなければ、学習効果は期待できない。そして、そうした学習成果を実際の日常生活や実社会で生かして身につけることができるような場や機会が提供される必要がある。

今後取り組むべき課題

本論文では学習プログラムの構成のみを提案している。したがって、実践に際しては、具体的な指導案あるいはマニュアルを作成し、さらに教材を準備する必要がある。指導にあたるのは、高校であれば教員であるが、他の機関等であればインストラクター的な役割を担う人であり、それらの指導者の指導力向上のための手立ても必要になるであろう。

また、学習成果を確認するための評価方法の確立も重要である。すなわち、1回1回の学習ごとの形成的評価と、一定期間の取組に関する総括的評価といったように、期間の異なる評価のための評価方法とそのための指標が必要である。方法としては、学習者の自己評価、指導者や学習者同士等による他者評価、そして具体的な行動に関する成果指標(例:就職率、定着率など)が考えられる。これらは、学習プログラムの改善に関しても重要な情報を提供してくれるため、必要不可欠な事項である。

引用文献

- Carmeli, A. (2003). The relationship between emotional intelligence and work attitudes, behavior and outcomes. *Journal of Managerial Psychology*, 18, 788-813.
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて (答申)
- 中央教育審議会 (2011) 今後の学校におけるキャ

- リア教育・職業教育の在り方について (答申)
Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning. (2012). *2013 CASEL guide: Effective social and emotional learning programs, preschool and elementary school edition*. Chicago, IL: Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning.
- Durlak, J. A., Weissberg, R. P., Dymnicki, A. B., Taylor, R. D., & Schellinger, K. B. (2011). The impact of enhancing students' social and emotional learning: A meta-analysis of school-based universal interventions. *Child Development*, 82, 405-432.
- Gouws, D. J. (1995). The role concept in career development. In D. E. Super & B. Sverko (Eds.) *Life roles, values, and careers* (pp.22-53). San Francisco: Jossey-Bass.
- Ikesako, H. & Miyamoto, K. (2015). Fostering social and emotional skills through families, schools and communities: Summary of international evidence and implication for Japan's educational practices and research. *OECD Education Working Papers, No. 121*. OECD Publishing, Paris. (池迫浩子・宮本浩司 (2015). 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成—国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆—ベネッセ教育総合研究所) <http://dx.doi.org/10.1787/5js075291wf0-en>
- 井芹まい・河村茂雄 (2016) 大学生の社会人基礎力の獲得タイプと自我同一性との関連 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊, 23, 61-71.
- 香川尚代・小泉令三 (2015) 小学校でのSEL-8Sプログラムの導入による社会的能力の向上と学習定着の効果 日本学校心理士会年報, 7, 97-109.
- 経済産業省・社会人基礎力に関する研究会 (2006) 社会人基礎力に関する研究会—中間とりまとめ—
- 小泉令三 (2008) 「社会性と情動の学習」にもとづく通信制高校生のための教育プログラム試案構成 キャリア教育研究, 27, 1-8.
- 小泉令三 (2011) 子どもの人間関係能力を育てるSEL-8S 1—社会性と情動の学習 <SEL-8S> の導入と実践— ミネルヴァ書房
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2002) 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に

- ついて（調査研究報告書）
- 厚生労働省（2004）「若年者の就職能力に関する実態調査」結果
- 松本雄一（2008a）キャリア理論における能力形成の関連性—能力形成とキャリア理論との統合に向けての—考察（上） 商学論究, 56(1), 71-103.
- 松本雄一（2008b）キャリア理論における能力形成の関連性—能力形成とキャリア理論との統合に向けての—考察（下） 商学論究, 56(2), 65-116.
- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領
- 文部科学省・国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2011）キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書
- 内閣府・人間力戦略研究会（2003）人間力戦略研究会報告書
- 大川浩子・本多俊紀（2017）我が国における就労支援に関する SST の現状と効果, その課題—文献レビューから— 北海道文教大学研究紀要, 41, 87-95.
- 田島祐奈・岩瀧大樹・山崎洋史（2016）女子大学生における進路選択に対する自己効力および社会人基礎力の研究 学苑 人間社会学部紀要, 904, 10-20.
- Taylor, R. D., Oberle, E., Durlak, J. A., & Weissberg, R. P. (2017). Promoting positive youth development through school-based social and emotional learning interventions: A meta-analysis of follow-up effects. *Child Development*, 88, 1156-1171.
- 山本十三代・阪上由美・田中結華・後閑容子（2017）在宅看護学領域における統合看護学実習前後の「社会人基礎力」の変化と実践場面との関連 摂南大学看護学研究, 5, 27-36.
- Zeidner, M., Matthews, G., & Roberts, R. D. (2004). Emotional Intelligence in the Workplace: A Critical Review. *Applied Psychology*, 53, 371-399.